



秋のバス旅行・朝光寺にて記念撮影

## 友の会行事に参加して

吉田 俊彦

友の会の企画はすばらしく、個人で行きたいと思っても、なかなか行けない所に連れて行っていただけるので楽しみです。特に先々で専門の先生方の解説が、ことの外うれしく思います。レジメと共に後日写真と参照しながら、じっくりと検討できるのもうれしい事です。趣味とピッタリあった催しで、身体の続く限り参加を願っています。

(友の会会員)





## 秋のバス旅行

# 「丹波立杭焼の里と寺社建築をたずねて」

石丸 健子

11月13日(日)、JR新大阪駅1階、団体待合室に午前9時集合。会員50名、学芸員2名の計52名。一番乗りと8時15分着、皆もまだ、暫くすると会員さんが見えた。1人2人と賑やかに。

2人まだと言うことで、私と千倉さんが残って、皆バスに乗って貰って待つことにした。そこへ清水さんご夫妻が来られて(会員ですが別のご予定でバス旅行には不参加(編集者注))お互いに無事を祈って左右に分かれた。時間が来たので急ぎバスに乗る。一路陶の里へ、全面の窓ガラスに一面の秋景色、空を見れば突き抜けるような青空、快晴。程なく学芸員の説明、ご案内があり、皆心やすくなった。今日1日が無事であることを願いつつ。

交通の渋滞もなく、どれ位走ったのか、中国道三田西から分かれ程なく鎮台窯に到着、穴窯、ガス窯の見学。当主のご説明3,40分程。当日はどの窯も中を覗く事が出来、中まで頭を入れてみた。大きな壺が2,3個入っていた。

バスに乗り、次の大熊窯へ。先ず当主のご説明。登り窯の見学。今まで本か写真では見えていたが実物は初めて、随分立派なのに驚いた。後日、道路計画で道路拡張のため窯がけずられるそうで、皆で残念がった。50mもある大きい窯。約1時間程見学後、昼食の出来る「陶の里」へと向かった。

昼食も慌ただしく、皆へのお土産を買うということで、買い物探し。バスも少し送れて出発。10月1日開館の真新しい兵庫陶芸美術館へ。山の傾斜を利用して立地、見事な景観。エレベーターで上ったり降りたり、広くて疲れた。

社町、上鴨川住吉神社。いよいよ学芸員酒井氏の本領発揮。色々説明を事細かく丁寧に。重要文化財の本殿は、三間社流造り、椽皮葺、箱椽銅板包み。室町時代中期の特徴をよくとどめている建築物。明応2年(1493)の建築。20分程見学鑑賞。

最後は朝光寺へ。バスから降りて人1人位の細道を山中へ。やや勾配のきつい石段を上って門前へ。山門には仁王像が左右に立つ。国宝朝光寺。本堂応永20年～正長元年(1413～1428)、典型的な中世密教の本堂。屋根は寄せ棟造本瓦葺。建物の見事さ、組み物の精巧に驚かされる。本堂の柱の太さ、どうして運んだのか?八脚門の両側に控える仁王像があまり大きくなかったが、古さ、彫りの見事さに感動した。石段を下りた処で左手の方に目をやると、滝の流れが見事。「つくばねの滝」と社町では天然記念物に指定との由。見学を終わってバスに乗り込み帰途につく。

帰途の車中で、福引きならぬ懸賞品。賑やかな歓声が上がった。本来は感想文、アンケートを書いて欲しかったが、お疲れだろうと、それではジャンケンがよいとなった。学芸員2人をお願いして親になって貰い、皆が勝てば何遍もということで始まった。男性には豆谷氏、女性には酒井氏。サア始めようと皆が大きな声で「最初はグー、あいこでショ」。男性は2度目で決まり、次は女性達。酒井氏の合図でまた「最初はグー、あいこでショ」。女性は1度で決まってしまった。

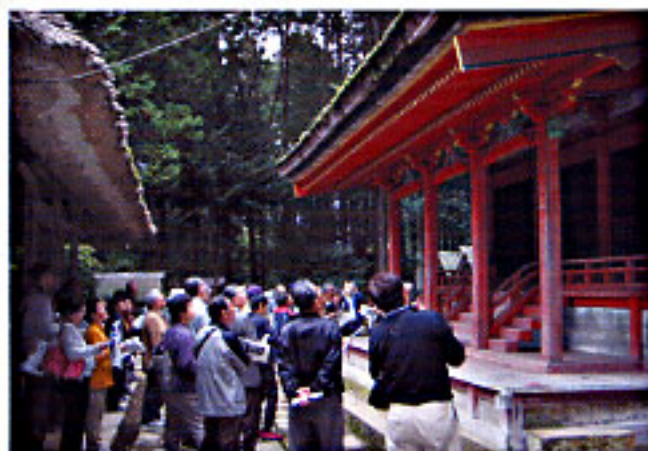
それぞれ勝った人、負けた人も一瞬の間でも同じ事への共鳴をし、その場の喜びを楽しんだ。その後が大変。車道は渋滞に入っていた。ノロノロと人の歩くよりも手取った。日もドブプリと沈み、辺りも暗くなってただ道路の灯りだけが赤々としていた。

長時間掛かったが、やっと無事に新大阪駅に着いた。皆それぞれ我が家へ急ぎ足。

皆様お疲れさまでした。またご一緒しましょう。(友の会会員)



登り窯の見学(大熊窯)



上鴨川住吉神社にて





# 富田林寺内町見学

戸田 健治

寺内町見学は、大阪市平野、八尾・久宝寺と見学させていただいたのですが、それぞれに地域、お寺により特色があり趣深いものがありました。今回の富田林は、戦国時代から戦火を逃れ、中世期からの遺構が一段と素晴らしいものでした。それは町中にある50軒のうち180棟が江戸～昭和初期までの建物で、町並みが「あてまげ」という、半間ほど道がずれ、見通しを妨げ、付近を流れる石川よりも一段高い台地に作られ、土塁や堀で防衛されています。また、その時代の変遷がよく判る「虫籠窓」や「忍返し」「格子」等で特徴が表され、一段と興味深いものとしています。

建物では、旧杉山家の内部見学により、その堂々たる家屋の構成に圧倒され、夏は涼しいが冬は寒いだろうなという声も耳にしました。また、葛原家の三階蔵は偉容を誇り珍しいものです。

今回はボランティアガイドが3名で、寺内町の歴史や成り立ちを詳しく、興味深い話や案内が、チョット気の付かない道端の物の懇切丁寧さは、今までになかったものとして、楽しい一日でした。

(友の会会員)



杉山家住宅の見学

連載

## 「浪花百景」

～今橋つきぢの風景～

第2回

仲田 昌宏

寝屋川と合流した大川は、天満橋をくぐり、西へ流れ天神橋のあたりで堂島川と土佐堀川と名を変え、土佐堀川の流れの一部が、東横堀川に入ろうとするところで葎屋橋をくぐり、息つく間もなく今橋を上に見て南下する。



葎屋橋の西詰(錦絵の奥左側)は天明3年(1783)に、新たに造成された新地で「築地」あるいは「蟹島新地」と呼ばれた。この眺めの良い築地は、料亭や旅館が並ぶ夜の街であった。これに対して今橋(錦絵の手前の橋左側)一帯は、鴻池をはじめ大きな両替商が軒を連ね「日本の富の七分は大坂にあり、大坂の富の八分は今橋にあり」と言われた。

今橋は、大坂の陣を表した絵図に見られるところから、豊臣の時代には、既に架けられていたと推定される。なお現在の今橋のすぐ下が公園になっていて、その北側に、先代「今橋」の高欄が保存されている。

(友の会会員)





特別展

# 「日本のわざと美」展

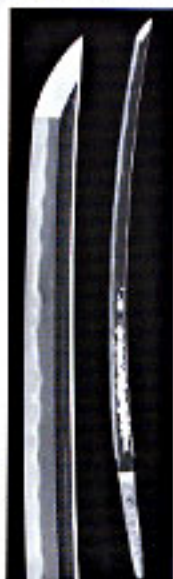
## 《重要無形文化財とそれを支える人々》

中野 朋子

本展覧会は、伝統工芸の分野における重要無形文化財保持者(いわゆる「人間国宝」)の作品ならびに重要無形文化財保持団体の作品、工程見本、選定保存技術関係資料等を展示し、日本の伝統工芸のわざとそこから生みだされる美しさを紹介するもので、関西での開催は、10年ぶりとなります。

大阪にゆかりの重要無形文化財保持者としては、「茶の湯釜」の角谷一圭氏、「日本刀」の月山貞一氏、「竹工芸」の二代前田竹房斎氏、五世早川尚古齋氏、「衣裳人形」の秋山信子氏の作品が出品されます。「茶の湯釜」の角谷一圭氏は見学会でお世話になっている角谷征一氏のお父様であり、当博物館とは鏡の鋳造などを通して関わりの深い方ですし、「日本刀」の月山貞一氏も当博物館の為に特別に刀を鍛えるなど、特別な関係を持ってきました。(両氏の作品は特別展期間中、常設展示7階の「美術工芸の諸相」コーナーに展示されます。あわせてご覧下さい。)

関連行事としては、大手前大学教授・切畑健氏による講演会のほか、重要無形文化財久留米絨技術保持者会ならびに伊勢型紙技術保存会、文楽人形かつら・床山 名越昭司氏による製作実演が開催されます。また友の会行事としては川島織物文化館の見学と同テキスタイルスクールでの本格的な染色体験を企画いたしました。ぜひ展覧会や関連行事へ何度も足を運び、伝統工芸の美しさと奥深さを実感してください。(博物館学芸員)



月山 貞一作  
「刀鉢 太阿月山源貞一彫  
同作(花押)  
平成六年二月吉日」



角谷一圭作  
「馬ノ國真形釜」

## 四人の空海と帰国1200年記念

児見山 繁

今年・平成18年(2006)は、四国八十八カ所巡り(お遍路さん)で有名な空海・弘法大師が、西暦806年に唐(当時の中国の国名)から遣唐留学生のひとりとして帰国した歳にあたります。

延暦23年(804)空海は、遣唐大使・藤原葛野麻呂とともに第一船で、最澄・伝教大師は第二船で唐に渡った。第三船と第四船は行方不明となった。空海は長安で2年間滞在し、大同元年(806)年に帰国したが、最澄は天台宗で約1年間滞在し、805年に帰国した。(以下つづく) (友の会会員)

### 編集後記

2006年最初の「大阪歴史」をお届けします。この冬は暖冬の予想を裏切り、本当に寒いですが、一方、博物館の中はとても暖いので(暑いくらいです)、中と外の温度差が大きく体調管理が大変です。季節がら、会員の皆様にはくれぐれも風邪にお気をつけて、という前に、まず自分の心配から始めないといけないかもしれません。

今年も友の会にご協力のほど、よろしくお願いたします。(事務局・まめ)